

～脳梗塞を起こしてから 24 時間以内に頭部 MRI 検査を受けられた患者さんへ～

脳梗塞の発症時間と頭部 MRI FLAIR 画像との関係の 研究に関するデータ使用のお願い

平成 23 年 9 月 12 日
川崎医科大学附属病院
脳卒中科 青木淳哉

脳梗塞は脳の血管が詰まることによって起きる病気です。脳梗塞に対する最も有効な治療方法が発症から早い時期に、その詰まった血管を再開通させることです。我が国では発症 3 時間以内であれば、点滴によって血栓溶解剤を投与する方法が認可されています。しかし、脳梗塞が起きた時に意識を失ったり、近くに目撃者がいなかったり、睡眠中におきたりした場合に発症時間を特定することは困難です。このような患者さんは発症時間が不明であるために上記の治療を受けることができません。その結果、後遺症が重度になることもあります。発症時間が特定できない患者さんは脳梗全体の 20%を占めるとも報告されています。

頭部 MRI FLAIR 画像は通常の診療で、我が国のみならず世界中で一般的に行われている検査方法です。この検査方法は発症から早期であれば、脳梗塞を捉えることはできないが、発症から時間が経過すると信号変化を呈する傾向があると以前から報告されていました。しかし、その詳しい検査結果は報告されていませんでした。

我々は、FLAIR 画像で脳梗塞が明らかでない場合は、発症から早期であると予測することが出来るのではないかと考えました。そこで、発症時間が特定できた患者さんの頭部 MRI FLAIR 画像の結果と発症から FLAIR 画像までの時間を見直す研究を行いました。具体的には 2004 年 4 月から 2008 年 6 月までに脳梗塞がおきてから 24 時間以内に頭部 MRI 検査を受けた患者さんを対象とさせて頂きました。結果は、私どもの考えの通り「FLAIR 画像で陰性であれば発症から早期である。FLAIR 画像は発症時間の推定に有用である。」というものでした。

我々はこの結果を脳卒中診療の向上のために論文として、医学雑誌に投稿させて頂きました。事後報告ではありますが、診療で得られた皆様方のデータを研究に使用することにご了解とご協力を賜りたく存じ上げます。個人名や個人が特定されるデータが公表されることは一切ありません。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。この研究に関して、ご質問のある方は下記までご連絡ください。

担当 青木淳哉 (川崎医科大学 脳卒中科)
電話： 086-462-1111 (代)
Fax： 086-462-1199